「サッカー・世界共通語」巡回写真展

協賛：Fotoagentur MAGNUM

４年に一度開かれるサッカーワールドカップといえば、オリンピックと並ぶ世界的なスポーツビッグイベントです。２００２年のワールドカップ決勝、ブラジル対ドイツのゲームは世界中で２００億人以上の人々がいろいろなメディアを通じ観戦、熱狂しました。
しかし、このような桧舞台で脚光を浴びる人はほんの一握りの人たちです。サッカーはご存知のとおりワールドスポーツであり、これほど世界中で行われているスポーツ種目はサッカーを除いて他にありません。世界的に人気のあるサッカーを支えているのはそのピラミッドを頂点とした裾野の広い一般競技者、愛好者です。そこではさまざまな出会いや人生が生み出されます。そのような機会を提供することができるスポーツがサッカーなのです。
今回開かれる写真展は「サッカー・世界の共通語」 がテーマになっています。
その定義はさまざまな状況で異なってくるかもしれませんが、「サッカー」は世界中で通じるまさにグローバルな会話手段なのです。つまり生活習慣やその動機はどうあろうとも、ボール一つ（あるいはボール状の何かが）あればできてしまう、それがこのスポーツの素晴らしさなのです。
特にサッカーはドイツでは長い伝統と歴史を持っており、２０００年にドイツ・サッカー連盟（DFB）は生誕１００周年を迎えました。DFB のメンバー数は６２０万を数え、世界最大のスポーツ団体です。ドイツ全土でいろんな人がこの「魔力的な」ボールを追い、楽しんでいます。
これを印象的に表しているのが、有名な写真家グループ、マグナムのカメラマンによって世界中で撮影された４０００点に近い写真です。
「サッカー・ 世界の共通語」展は、２００６年サッカーワールドカップに向けて公式の芸術・文化プログラムの一翼をになう Goethe-Institut（ドイツ文化センター）の企画として世界各国で開かれており、この写真展では膨大な写真のその一部が展示されています（詳細は http://www.goethe.de/kug/prj/tor/mag/aus/au1/deindex.htm、www.goethe.de/2006　を参照）。
この写真展を観ていただいた方々にドイツをより身近に感じてもらえればと幸いですし、この写真展を通じて、私たちは２００６年サッカーワールドカップを世界中のサッカーファンにアピールしていければと思っています。２００６年、皆さんにドイツでお目にかかることができればうれしく思うと同時に、サッカーワールドカップが人と人との出会いの祝祭となり、我々の合い言葉「世界をもてなそう」がスローガンだけに終わらず現実となるようにさらなる努力をしていきたいと思っています。

Goethe-Institut ドイツ文化センター総裁
Dr. ユッタ・リムバッハ

FIFA ドイツ２００６年ワールドカップ組織委員会会長
フランツ・ベッケンバウアー

「サッカー・世界共通語」巡回写真展は FIFA ドイツ２００６年ワールドカップのための公式芸術・文化プログラムの一環であり、ドイツ連邦共和国の公的資金によって運営されています。